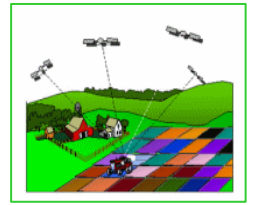


北海道情報化農業ニュース

北海道における持続的な農業の発展のための情報技術の活用促進
およびその健全な普及を図る。



● 運営委員会報告 ● 活動報告

No. 41 2017. 6. 30

運営委員会

2017. 06. 22/北海道農業公社 5F 会議室
第 12 期の事業計画について、下記の議題について協議を行いましたので、主な結果を掲載します。

【議題】

<報告事項>

1. H29 年度会員状況について
正会員 118 名、賛助会員 18 法人

<協議事項>

1. 会議の開催について
 - (1) 運営委員会の開催を 3 回とし、状況に応じて臨機開催する。
 - (2) 高度情報化農業ニュースの発刊について 4 回の定期発刊のほかに随時号外を発刊する。
 - (3) セミナー、講習会の開催について (案)
 - ア 研究・開発を巡る到達点
 - ・ GSP ガイドンス、自動操舵については、ICT 技術ベースとして普及段階に入った。
 - ・ 当研究会セミナーでは、「メッシュ気象情報と ICT 技術の活用による営農高度化」をテーマとし、現状と今後の方向を検討。
 - ・ ISO-BUS を介した作業機の ICT 化（セクションコントロール等）の開発が急進展。
 - ・ GIS をベースとした営農支援システムを開発中、富士通、クボタ、トヨタなど実証試験を展開。
 - ・ ドローンの農業利用に関しても生産者の関心は高く、除草剤や農薬散布の利用の他、

画像処理技術の開発と関連して、生育状況や病虫害の発生の早期発見など、利用期待も強い。

イ テーマに関して

- ・ ISO-BUS を介した作業機の ICT 化の現状と今後の展開
- ・ GIS をベースとした営農計画策定支援システムの現状と営農高度化（施設園芸も視野）
- ・ ドローン農業利用の新展開
- ・ 人工知能（AI）と農業利用など

ウ セミナー要領（案）

- ・ セミナーは、デジタル北海道と共催、他に後援も検討。
- ・ 全国ベースで講師の選定に入る。（次期総会&セミナーも考慮）
- ・ 開催時期は 9 月～10 月、200 人規模の会場とする。

活動報告

1. 特定非営利法人グリーンテックバンク「H29 通常総会及び記念講演会」
2017. 6. 19/北農ビル 19F 会議室
 - ・ 記念講演「公庫融資の変貌～実体経済の変化に応じて」
(日本政策金融公庫、農林水産事業本部 企画部 嶋谷 元 氏)
 - ・ 公庫融資の変貌～30 年前（バブル期）融資額 5,000 億円うち 4 割が土地改良資金、現在は、

4, 600 億円のうち 5 割が農業担い手向け

- ・変化に応じた公庫の取組～事業性評価融資、①目的、②仕組、③手順、④融資事例の紹介
- ・海外展開支援（トライアル輸出支援スキーム）について講演されました。

2. 特定非営利活動法人デジタル北海道研究会「定期総会及び記念講演会」

2017. 6. 20/第二北海道通信ビル 2F 会議室

- ・記念講演「GIS・リモートセンシング技術を農業・環境分野へ活用する」

（酪農学園大学環境共生学類 教授 農業環境情報サービスセンター長 金子正美）

- ・酪農学園大学農業環境情報サービスセンターの紹介（2011. 4 月設立）GIS、ICT 人材育成、GIS にとる農業振興。

- ・リモートセンシング衛星の現状～大型衛星から、注目される超小型衛星、酪農学園大学と Digital

Globe 社が協定締結、人工衛星データの無償利用が可能。センシングの原理（光学）と赤・近赤外 NDVI 指標で植物評価（植生マップ化）水田（タンパク測定）、牧草地（草種の把握）～多様な空間情報で営農支援について講演されました。

3. ロバスト農林水産工学「科学技術先導研究会」運営委員会へ当研究会もオブザーバーとして参加しました。

趣意：北海道大学が中心となって農業と工業の連携に基づいた産学官のコンソーシアムを形成する。

- ・工農連携による、ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点～世界トップ 100 を目指す研究・教育拠点の構築、北海道の地域創生の先導
- ・農林水産業の 6 次産業化と食の安全確保（北海道フードバレー：プラットフォーム構想）

* 研究のシーズと社会ニーズのマッチングを図る。

- ・研究会の事務局体制

工学系：松本謙一郎 准教授（工学研究院長補佐）E-mail:mken@eng.hokudai.ac.jp

農学系：森 春英 教授（農学研究院企画調整室長）E-mail:hmori@chem.agr.hokudai.ac.jp

4. HOBIT 講演会

2017. 6. 22/北海道大学百年記念会館大会議室【講演】

「北海道から発信する農業イノベーション～ロボット農業の幕開け」

北海道大学大学院農学研究院ビークルロボティクス研究室 教授 野口 伸 氏

1. 北海道大学ビークルロボティクス研究室紹介

- ・スマート農業を実現するプラットフォーム：農業機械のロボット化研究の過程を紹介

2. 日本農業の現状と課題

- ・担い手農家平均 66.5 歳、労働力不足の解消、技術の継承、農業生産物の質・量の維持向上、新規就農者促進など

3. 内閣府 SIP「次世代農林水産業創造技術」

- ・SPI が目指す我が国農林水産業の将来像
- ・日本型の超省力・高生産スマート農業モデル
- ・新素材開発等による農林水産物高付加価値化
- ・スマート農業による「Society5.0」の実現
- ・4 つの重点課題のアウトプット目標

4. ロボット普及に向けたロードマップ

- ・ロボット革命実現会議：GPS 自動走行、重労働の機械化・自動化、センシングで省力・高品質

- ・農作業のロボット化：オートステアリング、協調作業システムなど GIS やログデータが重要
- ・順天頂衛星システムの利用：位置情報の精度向上、国際貢献など大いなる可能性に期待

5. スマート農業普及に向けた自治体の役割

- ・岩見沢市の地域戦略を例に取組状況を紹介
- ・農水省・総務省など岩見沢市公開実証試験の取組状況と北村遊水地にてスマート農業モデル構想を発表（農水省革新的技術開発・緊急展開事業）

などについて、講演されました。

* 詳細については、後日、ホームページに掲載します。

＜発行＞北海道高度情報化農業研究会
事務局長：内田 秀一
〒060-0005 札幌市中央区北 5 西 6-1
公益財団法人北海道農業公社 農村振興部
TEL：011-241-7551 FAX：011-271-3776
e-mail：uchida@adhokkaido.or.jp